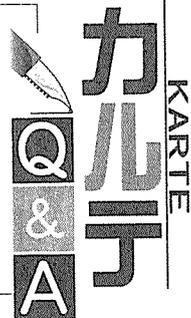


15年前に子宮脱の手術をしました。数年後に膀胱脱になり、リング状の装具を付ける「ペッサリー療法」を選びました。今も交換のために定期的に通院していますが、医師から「一度外してみてもどうか」と言われました。アドバイスをお願いします。(92歳、女性)



骨盤臓器脱

子宮脱や膀胱脱(医学的には膀胱瘤と呼びます)は、子宮や膀胱が腔から脱出する病気です。直腸が脱出する直腸瘤と合わせて骨盤臓器脱と呼ばれ、陰部の不快感や排尿、排便障害の原因となります。この病気は、骨盤底の筋肉

操作と、腔内にリング状の器具を挿入して骨盤臓器脱を防ぐペッサリー療法があります。ペッサリー療法では、長期間続けて留置すると腔粘膜がはがれ落ちて帯下(おりもの)や出血の原因となります。ま

用して補強、修復する場合もあります。92歳という年齢からすると、帯下や出血が気にならないのであればこのままペッサリーの留置を続け、何らかの病気になった際に対応を考えたら良いと思います。ペッサ

の選択肢もあります。再手術の場合は術式を検討する必要がありますが、体への負担が少ない腔中央閉鎖手術などの治療をお勧めします。(兵庫県産科婦人科学会、吉岡信也||明石市、大久保病院)

おりもの、出血ひどければ手術も

や靱帯^{じんたい}が出産や長期の立ち仕事などで弱くなり、子宮や膀胱を支えられなくなつて起ります。症状や年齢によって治療法は異なりますが、大まかには手術療法と保存的治療に分かれます。

うち保存的治療は、症状が軽く予防目的の「骨盤底筋体を腔の形状によってはうまくとどめ置くことができず、不快感が強いため留置を続けられないこともあります。手術療法はさまざまな術式

リーの着脱は容易にできるため、主治医の先生が提案するようにいったん外して、膀胱瘤が再燃すれば再び入れてもいいかもしれません。もし帯下や出血がひどかったり、ペッサリーを継続して留置することに強い不安を覚えたりするのであれば、手術